

1. 調査報告概要表

作成日 平成 20年7月25日

【評価実施概要】

事業所番号	1072400276
法人名	株式会社 オギノ電子工業
事業所名	グループホーム スマイル
所在地	群馬県甘楽郡下仁田町大字西野牧 5803-1 (電話) 0276-70-4187

評価機関名	サービス評価センター はあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町 2-29-5 コミューン100 1-B
訪問調査日	平成 20年 6月 24日

【情報提供票より】(20年 6月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 12月 1日
ユニット数	1ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	11 人 常勤専任 7人 非常勤 4人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り 1階建ての 階 ~ 1階部分
------	---------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	43,500円	その他の経費(日額)	光熱水費 400 円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(6月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2		4 名	
要介護3	2 名	要介護4		0 名	
要介護5	0 名	要支援2		1 名	
年齢	平均 85 歳	最低 78 歳		最高 91 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	下仁田厚生病院・大沢クリニック・ひらやなぎ歯科医院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者は全体的に軽度な人が多く、自立度が平均的に高いため意見・要望等の自己表現が可能であり、各自の役割等が継続的に実践されている。職員は利用者と共同生活者という認識を念頭におき、利用者の自己実現に向けての取り組みがなされており、地域密着型サービスの本来の姿ともいえる。災害対策の一つである避難訓練を散歩の機会を活用しながら、日頃から意識を高めていて「備えあれば…」の格言に添っていざと言う時のために日常的に行っていることは、リスクマネジメントの一貫ともいえる。代表者及び管理者の自宅がホームの同敷地内に位置しており、緊急時等に内線で確認が出来る体制となっており、特に夜勤者は安心して勤務に従事できる等、職員に対する職場環境のメンタルヘルスの役割を果たしているともいえる。これらは評価に値するものであり、今後も継続されることを期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>・運営理念の啓発＝地域の保育園・学校との交流・行事への参加等でホームの理解は深まっているが、広報「たより」への取り組みは検討中である。⇒広報誌「スマイル」を4回/年発行し、家族や下仁田町福祉課等への配布が行なわれている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価については、申し送り時に確認を行い職員全員の意見を取り入れ、代表者と管理者がまとめ記載を行った。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は定期的(1回/2ヶ月)に開催しており、サービス状況や外部評価等について報告を行い、委員の意見等を参考に運営に反映させている。災害対策時における地域の協力については委員である地元区長さんを通して依頼している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>広報誌「スマイル」を4回/年発行しており、行事等の日常の様子を報告し、家族の訪問時には個別に写真を渡し暮らしぶりを伝えている。身体状況等の変化については、随時電話にて連絡している。又、家族の訪問時には話し易い雰囲気づくりに努め、出された意見・要望等はミーティング時に話し合い運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地元の保育園児や小学校児童等の訪問があり、特に学期末には学年別で頻回に訪問がある。又、地域の行事(お祭り)等には利用者も参加している等、地域住民との交流が日常的に図られている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「笑顔あふれる心あたたかい介護・・・」等々独自の理念を掲げてあり、地域密着型サービスとして理解はしているが、表現に戸惑いがあり遭えて「地域」と言う文言は入れていなかったが、今後は理念の中でも掲げる方向で検討している。	○	理念は旗標とも言われており地域密着型サービスとしての観点から、掲げることにより意識を高め、地域の中でその人らしい暮らしが継続的に支えられるためにも、地域を意識した理念の取り組みを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念が職員のミーティングの場所に掲示してあり、申し送り時等で確認を行い理念の共有に努めている。又、実践に向け業務の中でも、日常的に話し合いながらケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の保育園児や小学校の児童等の訪問があり、特に学期末には学年別で頻回に訪問がある。又、地域の行事(お祭り)等には利用者も参加している等、地域住民との交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、申し送り時に話し合い確認の上、全職員の意見を踏まえ代表者と管理者が記載を行った。評価の意義を理解しており、外部評価の結果については、職員と話し合い改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的(1回/2ヶ月)に開催しており、サービスの状況や評価への取り組み等について報告し、委員から出された意見等はサービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の議事録やホーム便り(スマイル)を届ける等、下仁田町福祉課の担当者とは頻回に行き来しており、ホームの実情や取り組みを協議する等で日常的に連携が図れており、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便り(スマイル)を4回/年発行しており、行事や生活の様子を家族へ報告している。又、家族の訪問や毎月の利用料の支払い時には行事等の個別の写真を渡し暮らしぶりを伝えている。身体状況等の変化については、随時電話にて連絡を行なっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が訪問の際は話し易い雰囲気づくりに努め意見・要望等を聞く機会とし、話してもらえる様に働きかけている。又、苦情受付担当者(管理者)が明記されており、出された意見等はミーティング時に話し合い運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者へのダメージに配慮し、継続的な馴染みのケアを心がけており、職員は固定できるよう務めている。この一年間は職員の異動は無かった。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県主催の認知症介護実践者研修や協議会主催等の外部研修には積極的に参加するよう務めている。研修参加者はミーティング時に報告を行い、資料については全員が閲覧し共有化を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県の地域密着型サービス連絡協議会及び南部ブロックに加入しており、研修会や意見交換等の活動を通して、情報交換を行う等サービスの質の向上への取り組みが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望等については、本人と家族にホームを見学していただき、職員が自宅へ訪問する等、面談を繰り返すことで安心感を持って、納得した上での利用となるよう心掛けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者とは共に生活者であり人生の先輩としての気持ちを持って、特に言葉かけ等に配慮して接するようにしている。誕生日のお赤飯の炊き方やこんにやく作り等、教えられる事が多く日常的に支え合いの関係が構築されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	独自のアセスメント表を活用し、日常の声かけや言葉・ふれあい等の中から本人の希望や意向の把握を行っている。又、家族や親戚からの情報及び利用者や家族との会話の中から聞き取る等、本人本位の把握ができるよう心掛けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者各自が自分らしく暮らせるよう、アセスメントを基に本人・家族等から意向確認を行い、職員全員で申し送り等で話し合いの上、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	独自のモニタリングの活用により、利用者・家族の要望を取り入れ臨機応変の見直し及び状態変化が生じた場合の現状に即した見直しを行っているとの事であるが、介護計画の定期的な見直し及びモニタリングが3ヶ月毎であり、随時の見直し等の確認ができない。	○	個別の介護計画に基づいた統一的なケアの実践及び現状に即した介護計画であるか等の確認の為、又、利用者・家族等の意向の再確認等の観点から、少なくとも月に1回はモニタリングを行い、状態変化等について話し合いの上、現状に即した介護計画の作成を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院は原則家族に依頼しているが状況等に応じて職員による通院支援が行われている。又、介護予防共同生活介護・通所介護・医療連携体制等の指定を受け、近隣の高齢者等が利用できるよう多機能性を活かした支援が整備されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームに協力医療機関は整備しているが、利用者全員が従来のかかりつけ医に定期的(1回/月)に受診している。基本的には家族同行での受診支援を行なっているが、家族等の状況に応じてホーム職員のみの場合も受診結果を伝えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	過去に家族の希望により、終末期ケアを実践したケースがあり「重度化した場合に係る指針」が作成されている。しかし、今後は重度化や終末期については具体的な内容の見直しが必要であり、看護師を中心に家族・医師・職員等で検討中である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳に配慮した支援を行うよう、ミーティングの際折に触れ伝えている。又、利用者等の個人情報の保護については、記録の取り扱いや家族・外来者等に対し、絶対に漏らさないよう徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者各自のその日のペースに準じて、朝遅く起きる・毎日散歩に出かける・事務所の掲示板を確認に来る人等、一人ひとりの体調や気持ち等を尊重し、可能な限り個別のペースを保ちながら過ごせるよう柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	力量に応じて調理・盛り付け・後片付け等、一連の動作を利用者と一諸に行なっている。又、季節の料理で彩りを工夫したり、職員も各テーブルに同席し会話をしながら等、楽しく食事ができるような工夫がなされていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、夏期に3回／週(月・木・金)。冬季に2回／週(月・金)午後1時から全員を対象として実施している。その他体調等に応じて清拭や足浴等行なっているが、利用者に対しての希望確認等は行っていない。声掛け等の工夫により、拒否者はなく楽しく入浴ができるよう支援している。	○	楽しみながらの入浴を支援して行くと言った観点から、曜日や時間帯を設定せずに、一人ひとりの希望やタイミング(家庭生活の延長線)等に応じた個別の入浴支援への工夫を期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各自の生活歴等を把握し、洗濯物干し、たたむ・菜園・掃除等出来そうな事は日常的に楽しみながら継続できるよう支援している。又、出来た際は感謝の言葉を伝え喜び繋がるよう心がけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	屋外にベンチを設置し、お茶を飲む・散歩に行く等日常的な外気浴を心がけている。系列のホームヘッドライブを兼ねて、買物ツアー(ショッピングセンター)等で出かけている。又、手作り弁当を持参して季節の花見に行く等、外出支援が行われ気分転換が図られている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は錠をかけることへの弊害を理解しており居室には施錠しないが、玄関は職員の手の薄い時等に施錠する事があり、家族に説明し理解を得ている。しかし、今後は些少であっても鍵をかけなくて済むようなケアに取り組んでいきたいと考えている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	1回／年消防署に依頼し、避難訓練や救急救命訓練等を実施しており、日常的にも利用者の外出時には避難する意識を持ってもらう為「火事です…」と言って外に出かける事もある。地域への協力については、地元区長さんを通じてお願いしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は利用者の希望を聞き行事食を取り入れる等、一日を通して食材がだぶらない様に工夫している。各自の食事摂取は食事チェック表の活用により共有化されているが、水分摂取状況については、個別の記録(チェック表)等を行われていない。	○	季節の食材や行事食を多く取り入れ、食事内容への配慮はなされているが、総合的な栄養バランスや潜在的な脱水予防等の観点から、食事摂取量と同様に水分摂取量についても一日を通してチェックを行い、個別の健康管理等に繋げる事を期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	構造的に木材を多く使用し、ホールが吹き抜けで明るく温もり感が醸しだされている。ホール内には季節の花や装飾品等があり、ソファーが2ヵ所設置してある等自由な居場所が確保されており、居心地よく過ごせるような取り組みがなされていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者と家族で話し合い使い慣れた馴染みの物等、自由に持って来て頂くよう働きかけている。各居室には、箆笥・衣装ケース・写真等が設置されており、安心して過ごせるような配慮がなされていた。		